

2号機原子炉格納容器内部調査（2回目）の 実施について

平成24年2月27日

東京電力株式会社



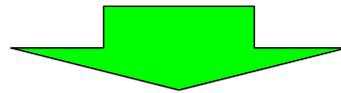
東京電力

1. 目的

【原子炉格納容器(PCV)内部調査(1回目)の結果】

2012年1月19日に2号機原子炉格納容器(PCV)内部調査(1st Entry)を実施。

- ・PCV内部の目視映像および雰囲気気温度データを取得
- ・PCV内の滞留水の水位は確認できず



【PCV内部調査(2回目)の目的】

- 滞留水の水位・水温を確認し、原子炉設備の安定冷却が維持されていることを裏付ける
- 新たに、PCV内雰囲気気線量を測定し、今後の廃炉に向けた取り組みに資する基礎データを取得する

2. 調査内容及び実施時期

調査項目

1回目と同じPCV貫通部(X-53ペネ、原子炉建屋1階)から、調査装置を挿入することにより、以下の調査を実施する。

	調査内容	調査装置
①	格納容器内の滞留水の水位を遠隔目視にて確認する	イメージスコープ
②	格納容器内の滞留水の水温を直接測定する	熱電対
③	格納容器内の雰囲気気線量を直接測定する	線量計

実施時期：H24年3月下旬を予定

	今回（第2回目）	前回（第1回目）
調査概要図	<p>PCV内壁とグレーチングの間隙からグレーチング下に挿入することを計画</p>	
使用ペネ	X-53（前回と同じ）	X-53

調査方法例（水位・水温測定）

3. 今後の実施方針について

今後は、2号機の調査結果を踏まえ、環境改善*の進捗に応じて、1、3号機の内部調査を計画していく。

また、併せて1～3号機のPCV内滞留水温度の継続監視が可能な設備設置に向け検討していく。

* : 3号機は原子炉建屋内が高線量雰囲気のため、作業実施にあたっては環境改善が必要